キャラクター名
及川　深代(おいかわ　みしろ)

プレイヤー名

シンドローム	バロール エグザイル	ワークス	ネゴシエーター	カヴァー	高校生
オプショナル		年齢	16	性別	おとこ
覚醒	憤怒	衝動	自傷	初期侵食率	33 %
出自	兄弟	経験	トラウマ	邂逅	親友

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	2	0	0			2
感覚	2	0	0			2
精神	2	0	2			4
社会	2	1	1			4

HP	38
行動値	8
(非装備時)	8
戦闘移動	13
全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			ＲＣ			交渉	1	
回避			知覚			意志	4		調達	4	
運転：			芸術：			知識：			情報 :情報:UGN	3	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
クリスタルシールド	15				ガード値+12 骨折のギプスみたいな形にしてある、バロールだし。

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
弟	P　尊敬	N　嫉妬		
Dロイス:守護者	P	N		
神宮ゆうり(故)	P 親近感	N 無関心		
風間朱理	P　友情	N 猜疑心		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	16	残り財産P：	1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
崩れずの群れ	1	2	オート	至近	自身	自動	-	
効果：	カバーリング　1メインに1回							
虚無の城壁	2	2	セット	至近	自身	自動	-	
効果：	ガード値 +[Lv×3]							
グラビティガード	3	3	オート	至近	自身	自動	-	
効果：	ガード値 +(Lv)D							
異形の守り	1	2	オート	至近	自身	自動	-	
効果：	バッドステータス回復							
時の棺	1	10	オート	視界	単体	自動	100%	
効果：	1シナリオ　1回　判定→失敗							
異形の刻印	2	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果：	最大HP+[Lv×5]							
異能の指先	★	3	メジャー	至近	単体	自動	-	
効果：	抵抗しない相手の記憶読み取り							
帝王の時間	★	2	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果：	時間がゆっくり流れる							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

・オリジン
熱心なレネゲイドの研究者であった彼の両親は、彼よりも先にレネゲイドに覚醒した弟を愛した。
一方、覚醒しない彼について両親は無関心、あるいは最低限度のコミュニケーションしかとることがなく、このことが強くコンプレックスとなっている。

ただ、弟はRCの技術に乏しく、キュマイラの獣化の影響が微細ながら残った状態(一般人の目をごまかすことができる程度)で日常生活を送っていた。
これがいじめの原因となり、時に弟は同級生から暴力を振るわれることすらあった。
この光景を目の当たりにした彼は、なぜ反撃に打って出ないかを弟に問うた。
「大丈夫だよ、兄さん。これっぽっちも痛くないから心配しないで。それに、僕一人が傷付くだけでみんなが仲良くなれるなら、それって素敵なことだと思うんだ」
悪意を一身に背負うことで他人を救うその姿が、彼にとっては尊く思えた。
この一連の出来事によって、彼の『人を守る』ということの定義は他人にとっては異様とも取れるように歪んだ。

そんな彼にとって、弟はさしずめ『施しの英雄』であったが、同時に人間関係において不慣と感じることもあった。
ある日、彼は弟が"裏切られて"いる場面に遭遇する。"裏切り者"に激しい怒りを覚え、弟を『守りたい』と切望した彼は覚醒。
それが神の皮肉であったのか、それとも恩寵であったのかは定かではないが、彼自身の理想を体現する能力がその身に備わった。
『親の愛を受けたい』というコンプレックスもそこに表れている。

・性格
一人称は僕。
良く言えば人間味に溢れている。悪く言うと人間ができていない。
自虐したり僻んだり、ということをしがち。
借りはしっかり返すタイプだが、自分の貸した借りについては無頓着。